２００７年５月号

シビル　メール　ニュース

Department of Civil Engineering
Nihon Univ.

これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ(http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp)より『ＯＢ向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。
なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方は購読を希望される方は、必要事項（卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス）明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで購読申し込みをしてください。

発行責任者　土木工学科教授・教室主任　岸井隆幸

教室主任・岸井隆幸教授より新年度を迎えてのご挨拶

初々しい学生 244 名を迎えて、土木工学科の新しい１年が始まりました。昨年度を振り返ると、景気はやや上向き就職戦線の厳しさも少し緩和されたように思います。しかし一方で、世間が土木を見る目は引き続き厳しく、18 歳人口の減少とあいまって入学志望者数の陰りにやや気が重い日々でありました。

こうした社会の動きを象徴するのが大学土木系学科の改名です。今や「土木工学科」があるのは国公立で 1 校、私立でも数校しかありません。殆どは建設、環境、社会、システム、都市といった単語の組み合わせに変わりました。今となっては「土木」はいわば「貴重種」ですが、「歴史・伝統」だけでは若者は反応してくれません。いつの時代も若者は将来志向、「次の時代を動かす」「人々に喜ばれる仕事」にあこがれます。理工・土木でもテクニカルデザイン、プランニングマネジメント、環境システムの 3 つのコースを打ち出して、これからの社会の課題に積極的に取り組んでいることを訴えてきましたが、今ほど「土木」が次の時代を動かす、人から喜ばれる「シビルエンジニアリング」であることを確認する作業が求められている時代はないように思われます。
「シビル」の意味を再確認し、社会のイメージを変える１年でありたいものだと思います。

平成 19 年度入学式挙行される

平成 19 年度日本大学入学式が 4 月 8 日、日本武道館において行われました。本年度の理工学部土木工学科入学生は学部生 244 名（A クラス 80 名、B クラス 82 名、C クラス 82 名）、大学院理工学研究科土木工学専攻 37 名でありました。また 4 月 3 日に、入学式に先駆けて新入生へのガイダンスが行われ、緊張して説明を聞く新入生の姿が見受けられました。なお、2 年編入生 2 名、3 年編入生 9 名、再入学生 1 名も新しく土木工学科に編入学しました。

ガイダンスの様子

平成 19 年度 1 年生クラス担任

本年度の 1 年生クラス担任は下表の 10 名の先生方がご担当くださることになりました。

◆1年生クラス担任

土木教室教員

資格	氏名	主な担当科目
教授	山崎　淳	コンクリート構造
教授	安田　陽一	水理学
准教授	鈴村　順一	数値計算
専任講師	羽柴　秀樹	測量学

一般教育教室教員

資格	氏名	主な担当科目
教授	淺田　泰男	基礎化学実験
教授	稲井田　次郎	微分積分学
准教授	大久保　尚紀	基礎物理学Ⅰ
准教授	加藤　昇一郎	歴史Ⅰ
准教授	渡辺　信夫	英語
専任講師	坂元　啓紀	基礎物理学実験

平成 19 年度卒業研究着手者決定

平成 19 年度の各研究室の卒業研究着手者が決定しました。本年度の卒業研究着手者数は 288 名と例年よりも多く、下記の 24 研究室に配属されました。

資　格	氏　名	研　究　室　名
教　授	梅村　靖弘	コンクリート研究室
教　授	大津　岩夫	水理研究室
教　授	岸井　隆幸	都市計画研究室
教　授	久保田　進	海浜研究室
教　授	塩尻　弘雄	振動研究室
教　授	島崎　敏一	交通研究室
教　授	竹澤　三雄	港湾研究室
教　授	田中　和博	環境衛生工学研究室
教　授	徳江　俊秀	地盤工学研究室
教　授	野村　卓史	風工学研究室
教　授	花田　和史	耐震研究室
教　授	前野　賀彦	海岸環境研究室
教　授	松島　眸	水圏環境システム研究室
教　授	安田　陽一	環境水理研究室
教　授	山崎　淳	コンクリート構造設計研究室
准教授	齋藤　利晃	微生物処理工学研究室
准教授	鈴村　順一	数値個体力学研究室
専任講師	梅津　喜美夫	土の力学･地盤工法研究室
専任講師	金子　雄一郎	社会基盤マネジメント研究室
専任講師	後藤　浩	沿岸域防災研究室
専任講師	小林　義和	社会基盤情報システム研究室
専任講師	高橋　正行	流水デザイン研究室
専任講師	羽柴　秀樹	環境リモートセンシング研究室
専任講師	山敷　庸亮	地球水資源評価研究室

合計　288 名

平成 19 年度土木教室歓送迎会が開催される

土木教室歓送迎会が以下の日程で開催されました。
■開催日：平成 19 年 4 月 13 日（金）
■場　所：ビストロ備前　2 階会場（立食形式）
　羽柴先生司会のもと、教室主任岸井隆幸教授より祝辞が述べられ、平成 18 年度末退任者 4 名（1 名欠席）と平成 19 年度新任者 5 名からご挨拶の言葉をいただきました。

平成 19 年度運営方針

4 月 19 日（木）に船橋校舎（駿河台ではスクリーン放映）にて平成 19 年度理工学部運営方針説明会が行われました。機械工学科教授・越智光昭学部長より下記の挨拶がありました。
『日本大学は、平成 19 年度予算編成基本方針として個性的かつ多彩な「コンペイ糖型」の「闘う大学」を体現し、「部科校の活性化」・「骨太の学生」・「就職に強い日大」などの施策の実現を打ち出しました。我が理工学部では、この日本大学の基本方針に沿って、「改正教育基本法」で謳われている教育目標、「文部科学白書」に示されている教育改革、及び「科学技術白書」に提示されている科学技術施策の動向と展開等を注視しつつ、加えて社会の要請に応えつつ教育・研究に関する事業を遂行し、「個性輝く魅力ある理工学部の創世」を目指して、新しい風を吹かせ、進化してまいります。』

平成 19 年度求人情報

平成 19 年度、土木工学科卒業予定者及び大学院土木工学専攻終了者に対する各企業からの求人募集がすでにスタートし、現在のところウェブ応募や 113 件ほどの求人依頼が土木工学科に来ております。又、公務員関係の試験も受験申込みが始まっており学生諸君は就職試験に向かって真剣に取り組んでおります。

◆就職担当教員

資格	氏名	資格	氏名
教授	梅村　靖弘	教授	前野　賀彦
教授	大津　岩夫	准教授	齋藤　利晃
教授	塩尻　弘雄	助手	中村　善子

最近の教員活動状況

山敷庸亮専任講師（地球水資源評価研究室）は、国連環境計画地球水監査計画(UNEP GEMS/Water)、土木研究所水災害リスクマネジメント国際センター(ICHARM)、世界水アセスメント計画、日本大学理工学部らと共同で、去る 3 月 1 日/2 日 国連教育科学文化機関 (UNESCO)Montevideo 支部において「ラプラタ川流域管理委員会準備会合」を主催しました。会議にはブラジル／ウルグアイ／アルゼンチンの政府機関につとめる水資源関係者や著名な研究者が招聘され、同流域の管理問題、UNEP-GEMS/Water による水質モニタリングネットワークの確立、国際プロジェクトの紹介とともに、日本大学学術助成金（総合研究）によって開催された第四回ラプラタ川流域ワークショップ(2005 年 11 月)およびその研究成果が発表され、同流域の専門家より日本大学の貢献について改めて高い評価を得られました。また第 5 回ラプラタ川流域ワークショップが 2008 年 3 月に世界最大の発電ダムであるイタイプーダムにおいて開催されることが決定し、山敷先生は次回会議のオーガナイザーの一人として選ばれました。第四回ラプラタ川流域ワークショップについては以下の UNESCO のホームページに記載されています。

http://webworld.unesco.org/water/wwap/events/4th_la_plata_workshop/organizers.shtml

山敷先生はまた、水文水資源学会が 7 月に創刊を予定している J- Stage を利用した水資源関連の Online Letter Journal の編集委員長をつとめておられます。この Journal の原稿募集は 3 月 31 日より開始し、その詳細は以下のページに記載されており、関連研究をされておられる方々の投稿を広く受け付けております。http://tm.kuciv.kyoto-u.ac.jp/~hwintl/

これに関連し、京都大学エネルギー科学科で博士号を取得した黒澤美幸氏が理工学研究所研究員として 4 月 1 日より地球水資源評価にて勤務することとなり、水資源と環境問題の経済的評価や、農業に関する LCA に関する研究を遂行すると同時に同雑誌の編集統括をつとめ、日本大学理工学部土木工学科より世界に向けた水資源関連雑誌の発行が行なわれます。

野村卓史教授と**長谷部寛助手**が 4 月 4 日(水)～4 月 6 日(金)に広島県広島市(場所:広島国際会議場)にて開催された International Conference on Computational Methods (ICCM2007)で下記の論文発表を行いました。なお、野村教授は本国際会議において座長も務められました。

◆Takashi Nomura, Daisuke Ono, Hiroshi Hasebe.(2007). Automatic mesh generation for the hexahedral finite elements specially intended to wind simulation of urban environments.

◆Hiroshi Hasebe, Takashi Nomura.(2007). Realization of the analytical wall function in the finite element analysis.

鎌尾彰司専任講師が日本大学海外派遣制度(長期派遣)により平成 19 年 4 月 10 日から平成 20 年 3 月 19 日までオランダのデルフト工科大学付属のデルフト地盤研究所に、客員研究員という立場で約 1 年間の長期出張に出発しました。現地では『軟弱粘性土地盤の長期沈下に関する研究』を研究課題として研究に努められる予定です。今後、適宜研究の経過をご連絡いただく予定です。